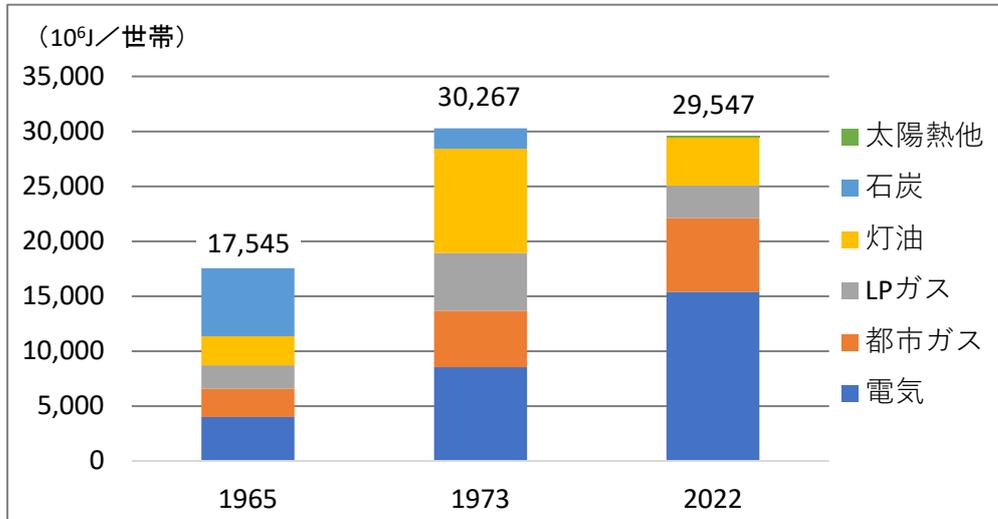


IV-1-③家庭部門におけるエネルギー源別消費の推移

1965年から石油ショックがあった1973年の間については、全体消費量が急増しています。内容としては石炭消費は急減しつつも、それ以外のエネルギーは増加し、特に灯油は3倍以上に急増しています。

石油ショック時と2022年は、全体消費量がほぼ同じとなっていますが、内容としては、灯油とLPガスが減少しつつ、電気が急増していることが分かります。

このように、家庭におけるエネルギーの消費は時代によって大きく変化してきました。



出典: エネルギー白書2024 第212-2-7

エネルギーと私たちの暮らし